

協働体制検討WGの検討状況 及び市民協働ワークショップの開催結果

(第3回 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 資料)

平成28年2月22日

1. 協働体制検討ワーキンググループの概要

○主な検討事項

- ・ 次期体制(準備会)移行に向けた体制の検討
- ・ 公園供用時の管理運営・市民協働体制の検討
- ・ 市民協働ワークショップの企画立案 ⇒市民協働ワークショップの“幹事会”としての役割

○委員名簿

(敬称略)

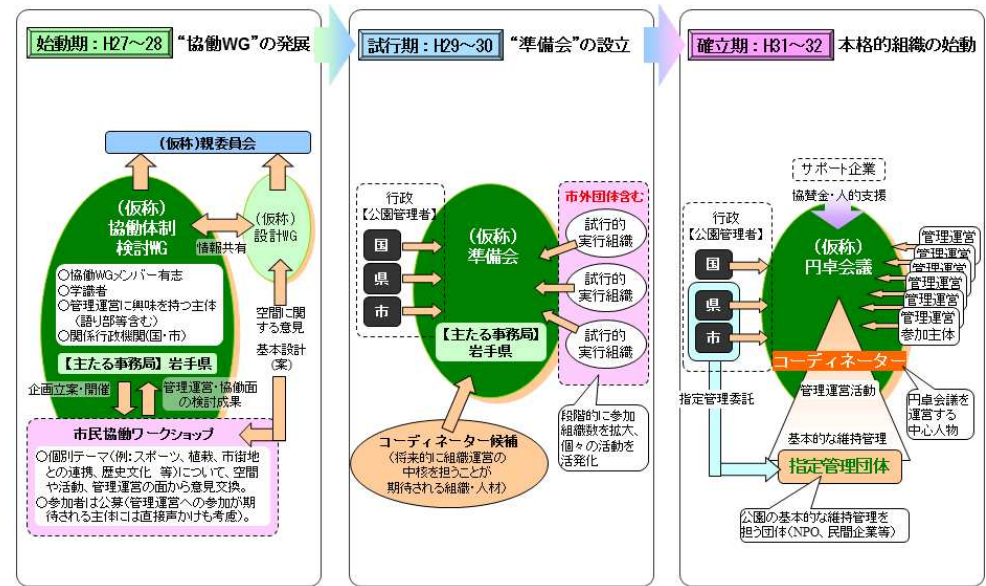
区分	氏名	所属・役職等
幹事	広田 純一	岩手大学農学部教授
副幹事	五味 壮平	岩手大学人文社会科学部准教授
委員	阿部 裕美	元陸前高田災害FMパーソナリティ
委員	石川 浩行	元一般社団法人 陸前高田青年会議所
委員	磐井 正篤	株式会社 いわ井
委員	岡本 翔馬	NPO法人 桜ライン311
委員	菅野 修	陸前高田市体育協会
委員	熊谷 政之	漁業
委員	種坂奈保子	陸前高田地域振興株式会社
委員	村上 幸司	陸前高田市企画部商工観光課
委員	吉田 和子	りくカフェ運営メンバー
委員	吉田 裕	今泉まちづくり協議会
委員	渡辺 雅史	横田地区コミュニティ推進協議会 ・高田松原を守る会

○事務局

岩手県県土整備部都市計画課
大船渡土木センター
陸前高田市

■管理運営体制の段階的な組織化のイメージ

会議・組織等の名称や内容は、基本計画策定段階のものであり、実際と異なる場合があります。



2. 検討スケジュール

有識者委員会【県】

8月5日開催

第1回有識者委員会

○検討方針(案)について

3月下旬開催予定

第2回有識者委員会

○各委員会等検討結果等について

協働体制検討

ワーキンググループ【県】

- 次期体制(準備会)移行に向けた体制の検討
- 公園供用時の管理運営・市民協働体制の検討
- 市民協働ワークショップの企画立案

9月11日開催

第1回WG

12月10日開催

第2回WG

3月中旬開催予定

第3回WG

市民協働ワークショップ【県・市】

10月20日開催

第1回WS

○公園について知ろう！
自由意見交換

1月27日/31日開催

第2回WS

○どんな利活用ができるだろう？
4つのテーマに分かれて意見交換

開催日未定

第3回WS

○すぐ始められる取り組みを探そう！

4-2 . 第2回市民協働ワークショップにおける主なご意見

日 時:平成28年1月27日(水)18:30~21:00

1月31日(日)13:30~16:00

会 場:陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

参加者:1月27日26人、1月31日22人 延べ48人

内 容:「第2回どんな利活用ができるだろう?」を主題として、高田松原津波復興祈念公園の基本設計の検討状況等の説明を行った上で、4つのテーマに分かれて意見交換を行った。



テーマ1:高田松原の利用のリスク軽減

<津波規模の想定> 想定する津波規模の設定は難しい/避難に要する時間を再確認すべき/以前の津波を基準に考えるべき

<避難施設> 避難タワーやシェルターの設置/避難用の船の設置/ヘリポートの設置

<避難ルート> 国道45号へ向かう古川沼の横断橋/国道45号の渋滞を防ぐ対策(ゲート等で強制的に)/国道45号に立体横断施設を設置/
気仙川の横断は避難ルートにしない/緊急車両の通れる幅員確保

<避難サイン> 避難路を色や光、植栽で表示/花火等で危険を伝達/海拔高度や避難距離を表示/立体避難地図の設置

<車での避難> 車での避難は避けるべき/距離的に車でないと避難が困難/車での避難訓練を実施して検証

<要介護者への対応> 身体障がい者用の駐車スペースを確保/入園の意思確認の工夫(チケット等)

<ソフト対策> 危険な場所であることを周知するための工夫(海の存在、公園の広さ等)/自己責任のもとでの立入(高台から離れたエリアについて)/避難ルールづくり(土地を知るお年寄りや避難経験者へのヒアリング)/地域で避難マップを作成、来園者へ周知/毎日避難訓練を行う

テーマ2:利活用(教訓の伝承)

<誰に> 次世代の子供たち/次に津波のリスクがある地域の人/津波を経験していない人/災害のリスクを抱えている人/修学旅行生

<何を> 命の大切さ/地元の人にとって見ることが辛い津波の体験/復興の経過と町や住民意識の変化/目に見えない市民の感情/避難所や仮設住宅等での暮らしぶり/障がい者の死亡率が高かったこと

<どんなふうに> 展示を常に更新できるようにする/災害は日常の中で起こりうると実感できるよう/情報収集や研修が行える施設に

<震災遺構> 災害のダメージが理解できるものは残しておきたい/雨ざらしで痛んで震災のダメージと分からなくなってしまうのなら残す意味がないのでは/二次災害が起こらないことが必須/その場で厳かな気持ちになれる見方や伝え方/希望者だけでも中に入れるような手直しを/中の様子が分かるカメラの設置

4-2 . 第2回市民協働ワークショップにおける主なご意見

テーマ3:利活用(レクリエーション・交流)

＜市民の利用する公園＞ 日常的に使う場所は市街地に近い場所に／子供を遊ばせる場所を早期に／車道と交錯しない遊歩道・ランニングコース／市内各所の公園・施設(野外活動センター等)との役割分担／駐車場の充実／使いやすく維持管理がしやすい施設

＜市街地との連携＞ 公園内で完結しない利用形態(市街地での宿泊・飲食などと連携した取り組み)／市街地の商業者も参加した検討／公園内施設で市街地の魅力発信(スマホ等の活用)／公園と市街地を巡る交通システム・乗り物、ストーリー性のある周遊ルート

＜地域の参加＞ 地域事業者が優先して公園内に出店できる仕組み／公園管理への地元企業の参加

＜市外からの来園者・リピーター確保＞ 県内被災自治体の情報発信ブース／がれきやモザイクアート・植樹等の継続参加型イベント／被災前からの高田の歴史文化の紹介／修学旅行生の受入／地場産食材を使った飲食／スポーツ施設の充実／特定のスポーツに特化する／釣り・カヤック等の水辺の利用／子供が行きたくなる施設等の整備／花火、マラソン、ロックフェス等の大規模イベントの開催／津波以外の特色も必要

テーマ4:植栽・自然再生

＜高田らしさ＞ 高田松原の復活／ツバキ・ツツジ・チャノキ(気仙茶)・ヒカミサンベニヤマボウシなど高田らしい植栽／リンゴ・牡蠣・わかめ・タカタノユメなど特産品の販売／震災前の松原にあったハマナス等の復活／高田松原のDNAをもつマツ苗植栽

＜収穫の楽しみ＞ 収穫したハーブティーなどを飲める場所を／ツバキ油の活用・実の換金／松原でキノコの収穫

＜水辺の利活用＞ 湿地の環境学習施設／シジミがとれる古川沼に／釣り堀・カキ小屋／噴水を設置し水質浄化と観光に／海水浴の復活／恋人の聖地づくり／白鳥が憩う沼にする

＜維持管理・市民参加＞ 灌水用の水源確保／松葉を肥料に／年間の維持管理を平準化できる植栽計画／来園した観光客が気軽に参加できる維持管理プログラム／ヤギによる除草／学校との連携／市民の手でマツ苗の植樹を／花や農業・漁業など専門家に協力・支援してもらえる仕組みづくり／園芸講座等の学びの場／公園内で活動する人たちの交流の場

＜その他＞ キャンプ・バーベキューがしたい／木材など自然素材を使った公園づくり／季節ごとに花を楽しめる公園／潮風に耐える品種を植えるなど適材適所の植栽／陸前高田市と交流のある都市に関わる樹木の植栽／昔のように花見ができる桜の復活